

令和4年度卒業式 式辞

温暖な日南にも、この冬には幾度かの厳しい寒さが訪れました。その冬も過ぎ、本格的な春を迎えようとしている今日の佳き日に、学校評議員並びに保護者各位の御臨席を賜り、第12回卒業式を挙行できますことに衷心よりお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。3年間の高等学校の課程を修了した証となる卒業証書を授与された今、時には楽しく、時には辛い思いをした高校生活をふり返り、胸がいっぱいになっていることと思います。

保護者の皆さま、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。お子様の在学中は、本校教育活動への御理解と御協力をいただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。ここまで育てられた御苦労には感慨深いものがお有りかと拝察いたします。これから社会的な責任を背負って独り立ちすることに不安を感じられるかもしれませんが、お子様の可能性を信じ、これからも見守っていただきたいと思います。

さて、卒業生の皆さんは、3年間にわたり、それぞれの学科において専門的な知識や技術の習得に励みました。また、専門教科の基礎・基本であるとともに、幅広い視野を身に付けるための普通教科の学習にも取り組んできました。そして、各教科・学科の学習の他、課題研究等の研究活動、学校行事、部活動やボランティア活動等のあらゆる学びにも真摯に向き合ってきたことと思います。二度と戻ることのない貴重な時間をそれらに費やし得られた経験は、これからの人生で幾度となく訪れるであろう困難や危機を乗り越える力やエネルギーとして皆さん自身に蓄えられています。自分を信じて自分が選んだ道をしっかりと歩んでほしいと願っています。

高校3年間で新型コロナウイルス感染拡大の波とともに過ごしてきた皆さんにとっては、夢に見た高校生活ではなかったと思います。やっとの思いで登校する意欲を維持した人もいることでしょう。初対面がマスク着用の顔だった友だちの素顔を見た時に、何となく違和感を感じてしまったことがあったかもしれません。感染状況が厳しい頃の昼休みには一斉に黒板を向き黙食をお願いしたこともありました。大切に何ものにも替え難い通常の高校生活を送ることができないまま、卒業を迎える皆さんのことを思うと申し訳ない気持ちにもなります。

そのような中、今年度は学校行事をできるだけ実施してきました。振徳祭文化の部での多くの生徒の個性溢れるパフォーマンスを見ながら、「昨年もこの規模での文化祭をさせてあげたかった。」と思いましたが、すべてのことについて、安全・安心を第一に方針を決めなければならなかったことを理解していただきたいと思っています。

ところで、今、日本だけではなく、世界中がAI、IoTなどの先端テクノロジーを活用した情報革命の推進や、世界共通のテーマであるSDGsの達成に取り組む等、急激な社会変革に直面しています。一方、日本では少子高齢化が予想をはるかに超えるスピードで進行し、あらゆる産業分野における人材確保に危機感を募らせています。新たな知識や技術を身に付け、豊富な経験を積んだ地域の課題解決に取り組む人材が求められる中、高校を卒業していく皆さんにとって、学びは今日で終わりではありません。むしろ、本当の学びはこれからです。社会の変化に柔軟に対応できる人になるために、自ら学び続けていかなければならない社会はすでに到来しています。

世界に目を転じれば、1年前に始まったロシアとウクライナの戦争は未だに続いており、日本を含む東アジア諸国の関係は決して安定的とは言えない状況です。高校卒業という節目にあたり、不安定で先を見通せない時代を生き抜くためにも、学びの大切さを忘れないでいてほしいと願っています。

本校の校訓「潔己」「至道」「振徳」は、「自分の心を清らかにし、行いにけじめをつける」、「まことの道を歩む」、「恵み施す強く優しい心を社会のために生かす」と教えています。これらの言葉を実践する人は、どのような世の中でも信頼され、尊敬され、大切にされる人であり続けることでしょう。これまで先生方から御指導いただいたことも忘れずに、社会に貢献し続ける人になることを期待しています。

本格的な春の訪れはもうすぐです。慣れ親しんだ学び舎からの旅立ちにあたり、ここまで育ててくださった保護者や身近な方々へ感謝の気持ちを伝えてください。

結びに、これから新たな生活と新たな人との出会いが待つ卒業生の一人一人が、幸多き人生を歩まれることを祈念し、式辞といたします。

令和5年3月1日

宮崎県立日南振徳高等学校

校長 山下 勉